

オーストラリア育児の現状

女性の社会進出が進んだ国というだけに公立で特に五日預かってくれるところはどこも満杯。

参考: 男性の給料を 100 とした場合、**女性の給料はオーストラリアでは 81.1、**

日本では 43.6 という事からオーストラリアは北欧諸国に次いで。(ILO 1995 年資料より)

例えばフランクストンでは、4 歳以下の子どもがいる家庭ではほとんどの母親が働いている。M またシドニーでは物価のわりに低所得層の人が多く、共働きが当たり前になっているが保育園事情がよくないので祖父母が面倒みているケースが多い。また、地域差はあるシドニーの保育園は現在2年の空き待ちが平均で、少子化が進んでいるわりに改善されない厳しい状況なのである。幼稚園、学校もちろん、人気のある所は「妊娠したらすぐに申し込まないとダメ!」と言われるほど競争率が高い。一方やはり一日\$40 などとかかる高級(?)保育園は比較的空いている傾向。(一日\$40 なら週に\$200。月におよそ9万。東京での保育料 4 万円弱の約 2.5 倍。親の収入によって政府から補助金が出るが、それでも働く女性の国にしては高い。乳幼児の保育料が高いと、週に5日フルに預ける人は少ないらしく、週に二日か三日しか来ないお友達が多い。子どもが小さい内は週に三日くらいのパートタイム勤務というのが、オーストラリアの Working Mother が多いよう。ちなみに現在、シドニーの1日の保育料は平均で70ドルと言われている。)しかしオーストラリアは出生率向上のために、児童養育手当や保育終了後も様々な家庭における0~12歳を対象とした延長保育等多種多様な保育サービスによって母親をサポートし安心して出産し子育てができる環境を作っている。(仕事に関係する理由により保育を必要としている親には現在働いている者のほか、求職中の者、勉学中の者、仕事のための研修中の者も含まれる)。また社会も働く女性に対してそれなりの理解がある。例えば

- ・ 私立学校が早々に休暇に入る学年末には、子連れ出勤する教員が何人かいるほど。
- ・ 一歳半か二歳位まではパートタイムかフルタイムかどちらかの勤務方法が選べる職場も。

オーストラリア就学前教育システム

- ・ オーストラリアの新学期は1月の終わり。(ちなみに夏休みは12月のはじめ~)
- ・ 日本のように統一したカリキュラムではなく、州ごとに異なる。
- ・ 幼稚園や保育園のシステム(年齢など)、呼び方まで州毎に様々なので要確認

<シドニーの場合一般的にまず以下のいずれかに通う。>

- ★**Day Care** (保育園。幼稚園と一緒に生後6ヶ月~6歳まで預けられる所も。
保育園に通えるまではベビーシッターを雇う人も)
- ★**Private Kindy** (私立幼稚園、3~4歳から)
- ★**Pre School** (プリスクール、3~4歳から)

義務教育は5歳から始まる。「Kindy」(幼稚園)と、州によって少し異なり呼び方もさまざま。)

- ・ デイケア探しの時ついでにと軽い気持ちで近所の幼稚園に申し込んでもよいでしょう。100 人近く「Waiting List」に載っている事もありますが入れるかどうかギリギリまで分かりません。
- ・ カリキュラムは学校により異なりますがプリスクールは教育面をととても重視したものを組んでいます。もちろん子供の個性にあわせ、語学や音楽、スポーツなどの特別カリキュラムを組む幼稚園も。
- ・ 州の基準によっては子供10人に職員1人(ちなみに日本の保育園ではおよそ3人に1人の割合)。<http://www.kun-ei.ac.jp/content/news/2008/20080225.html>

公的児童サービスの種類と定義

児童サービスには、規制のあるものとないものが。

「公的児童サービス(formal child care services)」

→規制の対象となる。

「非公的児童サービス(informal child care services)」

→規制の対象とならない。

児童またはサービス提供者(親戚、友人、隣人、有料ベビーシッター等)の自宅でよく行われる。

公的児童サービスの種類と定義は次の通り。時間やスタイルによって使い分けられる。

サービス名/施設名	サービス対象	時間	内容	備考
long day care centers (長時間保育施設)	就学前 児童	8 時間以上/日 週 5 日間 年 48 週間まで		ちなみに 0 歳児から受け付けている保育園は極めて少ない。1日 35~60 オーストラリアドル程度
preschools or kindergartens (初等教育の一環としての幼稚園)	学校へ通 い始める 前の児童 (3~5 歳)	週 2~5 回通園 (各回 2~3 時 間程度)	学校へ通い始める前 の児童教育に必要な 課程(カリキュラム)を 提供	ほとんどの幼稚園は、学校と同様の学期を設けて開園しており、この点が、長時間保育施設との大きな違い。年間 600~4,000 オーストラリアドル(施設によって差有り)
family day care schemes (住宅保育計画)	0~12 歳		家で 5 人まで預かる タイプの保育園	保育者は、この計画を運営している団体で一括して募集し採用されている。
outside school hours care services (学校時間)	小学生	授業前 放課後 学校休暇中	学校時間外に 保育および課外活動 を提供	

外保育サービス)				
occasional care services (臨時保育サービス)	就学前の 児童	必要な時のみ 短時間		通院、買い物、休息などの 個人的な理由に利用可能な 保育園
multifunctional centers (多機能保育施設)	0~12 歳		1つの施設で幾つか の異なった児童保育 サービス。長時間保 育、学校時間外保 育、移動サービスを 含む。	通常は非都市部に設置
multifunctional Aboriginal children's services (アボリジ ニ多機能保育施設)	文化的に 特有の 事情の ある児童		伝統的地域社会固有 の特別な要求に応じ たものとなっている	遊びを通じた長時間保育を中 心に運営されるが、その児童 の母親に対しても、栄養に関 する指導等を行っている。
mobile services (移動サービス)	非都市部 や遠隔地 の児童		玩具や図書の貸出し などのサービス。親 への助言等も行う。	

選び方

プレ・スクールやデイ・ケアを選ぶ時は

費用

- ・ やはり公立だと比較的安い。(保育内容も良好)
- ・ 年間12日までのお休みは保育料を払わなくてよい。それを越えた分については、正規の料金が必要(クリスマス休暇一ヶ月は保育園もお休みなので無料、ということは、たいていの勤め人が一ヶ月の夏休暇をとるということか?)。普通は、日本と同じように休んでも正規の料金を払うよう

場所、規模とともに次のポイントに気を付けて見学することをお薦めします。

認可

プレ・スクールは DoCS(Department of Community Services)、デイ・ケアは DoCS と NCAC (National Childcare Accreditation Council) から認可を受けている。

認可の期間には 1~3 年の幅があり、センターが取得している認可の期間が長ければ長いほどそのセンターの質は高いと見なされている。

教師

- ・ 子どもが教師に話しかけた時や、悪いことをして怒られた時の様子を観察

- 教師が子どもの目線に合わせて話をしているか
- 自分の感情を子どもにぶつけていないか
- ・泣いている子がほったらかしにされていないか

先生の子どもへの関わり方に疑問を持ったら、そのセンターを選ぶのは止めた方が良いでしょう。納得して任せられる先生のいる所を探しましょう。

オリエンテーションシステムの有無

オリエンテーションのシステムがあるかどうか聞いてみましょう。

これは、正式にプレ・スクールやデイ・ケアを始める前に、数日に分けて少しずつセンターにいる時間を増やし、子どもがセンターに馴染むようにするシステムです。オリエンテーションを嫌がるセンターには、きめ細かいケアは期待できないかもしれません。

衛生

トイレやキッチンなどが清潔に保たれているかはもちろんですが

- ・ トイレット・トレーニングにはどのように対処してくれるのか
 - ・ オムツは1日に何回取り替えてくれるのか
 - ・ トイレには何回連れて行ってくれるのか
- も確認しましょう。

個人記録

プレ・スクールもデイ・ケアも子どもの記録を付ける義務があり、それは保護者が要求すれば見せてもらうことが可能。そのセンターが1人ひとり注意深く観察し、記録しているのであれば、お子さんの成長の様子を詳しく知ることができ安心です。

もしものために、別の保育方法を考えなければなりません。事前に分かっていたら Working Holiday の日本人で保育や看護婦の資格を持っている人をベビーシッターに雇うといいでしょう。

様々な特色を持った保育園が

- ・ お弁当持参の保育園が多いが、給食サービスがあるところもある。
給食は、例えばソフトクリームにパンとソーセージのみの時も。。しかも、ソフトクリームを先に配るものだから、当然こどもはまずアイスをたいらげ、パンとソーセージを食べない子も出てくるという。こういったメニューはずいぶんシンプルだが、一応、州の基準にのっとった栄養バランスの良いメニューだそうだ。
- ・ 食事のメニューはすべてボードに記載されているところもあり、お迎えの時に何を食べたのかちゃんとチェックできるようになっている。
- ・ 朝食を家で食べていない場合は必ず食べさせてくれる。
- ・ ランチ以外にサンドイッチなどのスナックや、フルーツ、粉ミルク全て用意してくれるところも。
- ・ 毎日午前のおやつ(Morning Tea)用に果物やヨーグルトを持参し、皆と一緒に食べる場所も(自分のだけ、食べるのではない)。

- ・ 日本語が分かるスタッフがいるところがある。
(日本語教育の盛んなオーストラリアでは、片言の日本語が話せる人は珍しくない。英語が話せないアジア系の子の保育経験ありのスタッフも。英語を母国語としない子供に英語を教えるための手作りの絵本が用意してある。)
- ・ 年齢別の教室に分かれているところも。
- ・ 大学が専用の保育園をいくつも抱えているところも。
- ・ 費用、食事、アクティビティ、スタッフのサポート、すべての面でかなり秀でるところもある。
- ・ 小規模の保育園(例えば定員25人くらい)の方が、目が行き届いていいという。
- ・ アルバムのような素敵なスクラップブックを作るところも。
(「Day Care」での写真や絵などの作品を貼り、担当の先生が細かいコメントを記入してくれたものを数カ月ごとに家庭に持って帰るよう渡される。それに、家庭での写真などを数ページ貼り、また保育園に持ち帰り、1冊が終わるまで何度か繰り返す。忙しくて育児日記もつける暇のない働く親には、本当に嬉しいサービスだ。)

http://baby.goo.ne.jp/member/topics_back/topics38/w_sydney/05/03.html

参考: 「子連れ留学 to オーストラリア 佐藤麻岐著 社会評論社」

保育園によって違うのだが、申し込む際、ただ名前を「Waiting List」に載せるだけの場合と、申込金がある場合と両方ある。(通い始めた後返してくれる)。運がよければオープンしたてで、空き待ちをしている人が少ない保育園に出会えるかも。

http://baby.goo.ne.jp/member/topics_back/topics38/w_sydney/05/

申請

申請時期: 入園前の年の3学期までにはすませた方が無難。

(センターによっては、もっと早くからウェイティング・リストに名前を載せてくれるところもあるので、電話やメールなどで確認しましょう。)

オーストラリアは契約社会

お迎えが遅れると罰金をとられる

事は珍しいことではない。5:30の正規時間で申し込んでいる場合、5:31には罰金、15分ごとに\$10(特例保育は6:00をすぎると罰金の対象)。6:30をすぎると、子供は職員の家に連れていかれる。

そういった細かな取り決めが文書になっていて、

「読んで了承しました」というサインを求められる項目の例を挙げてみます。

- ・ その他に「教育実習が行われることを了承します」
- ・ 「子供を施設の外に散歩に連れ出すことを了承します」
- ・ 「38.3度以上の時に薬を与えてもよい、連絡があった場合はすぐ迎えにくる」
- ・ 「医療方針(伝染性の病気の時は休ませる etc)を了承します」
- ・ 「保育料をきちんと払い、遅れたときは罰則に従います」

- ・「けが、病気の際は保育園が指定の病院に連れていっていい」
- ・「職員が最前を尽くすことを理解し保育園でのけが、
病気に関して保育園を法的に訴えません」
- ・「裁判所から保護者権についての決定があった場合は、保育園に知らせます」

一度センターを選んだら、センターの先生を信頼して任せるようにしましょう。

保護者が不安になれば子どもも不安になります。

- ・ 子どもが心配で、いつまでもセンターに留まると、却って子どもに辛い思いをさせることになりますので、必ず後で迎えに来ることを子どもに伝えて(子どもが遊んでいる間にこっそり抜け出すことは、「置いていかれたのでは？」と不安に思わせることになります)帰るようにしましょう。
- ・ いったん預けた後でのぞきに来るのも厳禁。(どうしても心配な時は、途中でセンターに電話して様子を尋ねてみることをお勧めします。)

日豪の違い

・ 帽子なければ、外遊びなし

紫外線の害が問題になっているオーストラリアでは、No Hat, No Play。帽子がないと、外で遊ばせてもらえない。日焼け止めクリームが保育園提供か、持参か入園説明書にも明記されていて、毎朝塗ってから子供を預けるよう指示されている。園庭の上に幕がはってあって日をさえぎるようになっていたりするところもある。しかも夏になるとほとんど内遊び、子供が外に出られるのは日が傾きかけた4時過ぎ。お迎えが早すぎて外で遊べなくなる事も。

・ お誕生日

ケーキだけでなく、ちょっとしたプレゼント(お菓子、風船、紙帽子 etc)を全員分用意する親も多い(誕生日は最大のイベント。家でのパーティでは、民間の会社からラクダ、道化師、妖精のお姉さんなどを借り出す親もいるそう)。20人も子供がいれば、月に1~2回は誕生日会。

- ・ 日本人と感覚が違いオーストラリア人の親ではきまりを平気で守らない人もいるそう。。

保育内容

あるデイケアの1日を簡単にご紹介してみると…

- 8時過ぎ 登園
- 9時 モーニングティー(フルーツ)
部屋の中、または外で遊ぶ
- 10時半 昼食
- 12時 お昼寝 (寝かしつけも、もちろんオーギー流。ベビーベッドにポンと寝かされて、子供たちは泣きぐずりつつ自分で眠りに落ちるようにしつけられている。

14 時 アフタヌーンティー(ヨーグルト)

部屋の中、または外で遊ぶ

16 時 お迎え

アフリカの楽器などを紹介する「アフリカンリズムの日」

色んな髪型に挑戦する「ヘアードレッサーの日」

キャンバスで油絵の具に挑戦する「ペインティングの日」

「昆虫や動物などを紹介する日」

学校の制服を着て「スクールプレイの日」

ケーキを持ち込んで「お誕生日パーティ」 などがある。

ちなみにデイケアには通常、連絡帳のようなものがない。口頭でその日の様子、変わったことなどあれば聞くのだが、先生たちも忙しいうえ、いつも捕まってもゆっくり聞けるとは限らず、実際のところ詳しい状況はなかなか聞けないのが実情。

School Readiness(小学校準備)と小学校の選び方

<入学時期>

- ・ 4月30日時点で満6歳になる者は、同年の1学期開始日に入学する。
- ・ 基本的には学年の年齢の区切りは、8月から翌年の7月の間に生まれた子ども
- ・ オーストラリアでは保護者が経済面や家族の事情等も考慮して入学時期を決める事が可能。

子どもの状態によって少し早めたり遅らせたりすることができます。ですから、4歳ちょっとで入学する子どももいれば、6歳近くなってから入学する子どももいるということです。

- ・ 子どもをよく知っているプレスクールまたはデイケアの先生とはたして自分の子どもが小学校に行く準備ができているのかどうか相談する(一番良い方法です。まず大事なものは、社会的、精神的な面。自分の欲求を先生に伝えることができるか、集団の中で先生の指示に従うことができるかなどの判断)

Department of Community Serviceのウェブサイト(www.community.nsw.gov.au)に「School Readiness」についてのハンドブック(英文)がありますので、それを見ながら子どもの発達状態の把握や、小学校前にできることをやってみるのもいいでしょう。

<申請時期>

私立の小学校の場合、子どもが生まれた時にウェイティング・リストに名前を載せてもらう人が多いよう。それ以降については各学校に問い合わせてみましょう。公立の場合は、入学年度前年の後半(3または4学期)になります。申請書は各学校のオフィスに問い合わせ、直接取りに行くか、郵送してもらうようにしましょう。

<学校選びのポイント>

私立か公立か

私立の方が1クラスの人数が少なく、先生の目が行き届くと考えられていますが、公立でも評判の良い学校はたくさんあります。施設はやはり私立の方が整っています。実際に通っている子供を持つ保護者や、学校が違って小学生の子どもを持つご家庭にいろいろな学校の評判を聞いてみるのもいいでしょう。

学費

- ・ 公立は永住権を持っていれば無料、テンポラリー・ビザであれば年間4,500ドル
- ・ 私立はカトリック系の学校は5,000ドル前後、そのほかの私立は5,000～1万2,000ドルくらい

学校の規模

- ・ 大規模な学校だと1学年のクラスが4つ以上
- ・ 小規模の学校だと1、2クラスしかない
- ・ インファント(幼児)だけ(Kindy から Year 2 まで、私立または公立)の学校など

ロケーション

家庭の事情や子どもの体力に合わせて、通学方法や時間を考慮しなければなりません。

以上の点と子どもの性格を考慮し、やはり以下のいずれかの方法で実際に目で見て確かめることをお勧めします。

<見学について>

- ・ 公立でも私立でも3・4学期になるとオープン・デーを設けており、学校見学が可能。
- ・ 個人的に学校にコンタクトをとって学校見学(スクール・ツアー)をすることができるが、見学できる曜日を決めている学校もあるので、各学校に確認することが必要。
- ・ 登下校時やお昼休み、フェイト(文化祭)などの開催時に学校を訪ねて雰囲気確かめる。

<http://resaust.exblog.jp/1717983/>

<http://wom-jp.org/j/WORKING/WW/og.html>

http://top.25today.com/ikuji/auskyoiku/post_763.php#a009112

http://top.25today.com/ikuji/auskyoiku/school_readiness.php#a009793

習い事

オーストラリアは意外に教育ママが多く習いごとには音楽、スポーツ、ダンス、バレエ等がある。なかでも、オリンピックの影響も手伝ってか、スイミングクラスはとても人気があり、生後6週間からスタートする。温水プールで病気をもらいやすいデメリットも忘れてはいけないが、「めざせ、イアン・ソープ!」と親は思うのだろうか。

参考情報

施設の内訳<1997年>

地域をベースにした長時間保育施設は 4 万 6300 か所
民間の長時間保育施設は 13 万 6600 か所
在宅保育施設は 6 万 2700 か所
臨時保育施設は 4900 か所
多機能保育施設とアボリジニ多機能保育施設は合わせて 1700 か所
学校時間外保育施設は 7 万 9000 か所となっている。

連邦政府が承認した長時間保育施設、在宅保育サービス、臨時保育施設、多機能保育施設及びアボリジニ多機能保育施設を利用している低中所得家族の保育費用の負担軽減のために、施設に対して、資金を提供をしている。学校時間外保育サービスに対しても額は少ないが、同様の資金提供をしている。

時相保育還付金 (Childcare Cash Rebate) :

仕事に関係する理由により、公的な児童サービス(長時間保育施設等)または非公的な児童サービス(有料のベビーシッター等)を利用している家族に、その利用に係る費用の一部を還付する、というものもある。

児童保育サービスの利用形態

<1996年3月オーストラリア統計局の調査結果>

- ・ オーストラリアの 12 歳以下児童のほぼ半数(48%)が何らかの児童保育サービスを利用。
- ・ 12 歳以下児童の 20%が公的児童サービスを受けている。

参考URL: <http://www.clair.or.jp/j/forum/forum/gyosei/110/INDEX.HTM>